

1. 評価報告概要表

【評価実施概要】

事業所番号	2472900345
法人名	社会福祉法人 洗心福祉会
事業所名	阿児ケアサービスセンター 真珠荘 グループホーム
所在地 (電話番号)	志摩市阿児町鶴方字小入り口3503-10 (電話) 0599-44-5650
評価機関名	三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	平成 19 年 7 月 5 日(木)

【情報提供票より】 (H19年6月10日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 15 年 10 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	7 人
職員数	8 人	常勤 7人, 非常勤 1人, 常勤換算 8人	

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り		
	2 階建ての	1 階 ~	2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	35,000~40,000 円	その他の経費(月額)	23,000 円
敷 金	有(円)	(無)	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	500 円	昼食 650 円
	夕食	700 円	おやつ 100 円
	または1日当たり 1,850円		

(4) 利用者の概要(6月10日現在)

利用者人数	7 名	男性 0 名	女性 7 名
要介護1	2 名	要介護2	1 名
要介護3	4 名	要介護4	0 名
要介護5	0 名	要支援2	0 名
年齢	平均 86 歳	最低 81 歳	最高 92 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	三重県立志摩病院 尾崎内科 形部歯科医院
---------	----------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

建物の周りには緑豊かな庭園と雑木林が広がり、居間や居室の窓からは、四季折々の志摩の景色を楽しむことが出来る。閑静な別荘地の一角に位置し、企業の保養所を改修した、ゆったりとアットホームな「毎日が保養所気分」のホームがそこにはある。日課を優先させることはなく、利用者の希望を聞き、想いを押し量り、寄り添いながらその日、その時を大切にしたケアが実践されている。仕事で外に出る職員には名詞入れをプレゼント、職員の願いを聞き入れ着物を仕立てる等、一人ひとりの力が十分に発揮できるように感謝と励ましを忘れず、生きがいや喜びを与えるような支援が行われている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目 ①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 受託事業もなく市町村との関わりも、さほど強くないとの指摘であったが、現在は地域支援事業を併設のデイサービスと共に受託し、市が推進する介護保険事業所連絡協議会の設立への準備支援を行う等、市町村との連携強化のための取り組みが行われている。 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	評価の意義や目的を理解し、職員の意見も聴取しながら自己評価を行った。評価結果は運営推進会議に報告し、内部でも改善に向けての具体策の検討を行っている。
重点項目 ②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 積極的に参加してもらえるよう関係者に働きかけ、如何に多くの意見を引き出し、改善に向けた取り組みが出来るかを工夫している。実際に提案された改善事項や意見・要望についてはホーム内の会議で話し合い、実施に向け具体策を検討している。
重点項目 ③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 運営推進会議やホームパーティーへの出席等、機会を捉えて声掛けを行い、気軽に話し易い雰囲気づくりをしている。苦情等直接ホームに言い難いことについては、重要事項説明書にも外部相談機関を記載し、気軽に利用できる旨を説明している。
重点項目 ④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 自治会や老人会の活動には積極的に参加し、外出や散歩時には挨拶を励行する等、常に地域の一員であることを認識し、交流機会を多く持つよう心掛けている。介護者教室、法人行事への参加呼びかけ等を通じ、地域との関係が双方向となるよう努力している。

2. 評価報告書

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	住み慣れた地域で安心してゆったりとした生活を持続するため「敬意をもって、個性を活かし、ぼちぼち行こか」とのホーム理念を持っている。		
	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	日々の中で管理者と職員が理念を意識しながら話し合い、それを実践できるよう日常的に取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に入会し、その活動には積極的に参加している。また老人会の主催行事にも招待や声掛けをいただき参加させてもらい、地元の人々と交流機会が多くもてるよう支援している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の意義や目的を理解し、職員の声も聴取しながら自己評価を行い、サービスの質の向上に取り組んでいる。評価結果は運営推進会議にも報告し、内部でも改善に向け具体策の検討を行っている。		
	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	積極的に参加してもらえるよう関係者に働きかけ、如何に多くの意見を引き出し、改善に向けた取り組みが出来るかを工夫している。実際に提案された改善事項や意見・要望についてはホーム内の会議で話し合い、実施に向け具体策を検討している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	日常の課題の相談等、常に市の保険課や福祉総合支援センターと連携を保ちホームの理解や支援を得ている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	日常の暮らしぶりや健康状態、預かり金の受払い等については、電話や手紙を使い定期的に報告している。なお家族来訪時には直接説明をするよう配慮している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議、ホームパーティーへの出席等、機会を捉えて声掛けを行い、気軽に話し易い雰囲気づくりをしている。また苦情等直接ホームに言い難いことについては、重要事項説明書にも外部相談機関を記載し、気軽に利用できる旨を説明している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	出来る限り、併設のデイサービス等建物内の異動に留め、顔馴染みの職員がサービス提供でき、利用者・家族に不安を与えないよう配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各委員会(例 安全衛生委員会)主催の内部研修、外部主催の段階別研修、資格取得研修への全面的バックアップ等サービスの質の向上と個人の資質向上のため、勉強会、研修会に参加することを奨励している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会へ加入し、見学会や勉強会に参加している。共にサービスの質を向上させるよう個別の情報交換、相互訪問等も行われている。なお本年度から市介護事業者連絡協議会が発足されるため、それへの参加も予定している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用前に遊びに来てもらったり、併設のデイサービスを前もって利用してもらおう事で、徐々に雰囲気馴染めるよう、家族とも相談しながら個別に対応している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者の趣味や得意なものを職員と一緒にやる場面を作り、学ぶ気持ちと感謝を伝え、共に助け合う関係が築かれている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時において利用者、家族の希望を聞き、また日々の生活の中から把握した特徴や希望を記録し、職員間で共有することによりケアに役立てている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	課題を収集し、利用者・家族から希望を聞き、利用者の視点に立った個々の介護計画が作成されている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	基本的には3ヶ月おきに計画書の更新を行っているが、1ヶ月に1回カンファレンスを行い状態の変化等状況に合わせ、利用者、家族の要望を交えた見直しを行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者、家族の要望や状況に応じて自宅や畑、通院、墓参り、いきいきサロンの利用への送迎等柔軟に対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に利用者、家族と相談し、意向に副う形で受診する医療機関の決定と受診対応を行っている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	「重度化した場合における対応に係る指針」を作成し、重度化した場合に備えての話し合いを家族と行い、意向に副った支援が出来るよう体制を整備している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	接遇プロジェクトを設け「接遇の基本」という全職員所有のマニュアルの見直しを行った。接遇会議においてもマナーやプライバシーを損ねることがないよう話し合い、実行している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本となる日課はあるが、一人ひとりの体調や気分により予定を変更、その日、その時の支援が出来るよう取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と職員と一緒に準備し、一緒に食事し、一緒に片付けをし、家庭の延長として楽しみの場、楽しみな時であることを願い支援している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的には週2, 3回利用者の希望により入浴を楽しめるよう計画しているが、申し出があれば併設デイサービスの風呂場利用も含め毎日でも対応可能である。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	園芸や畑の草取り、裁縫、食事の準備、片付け等得意な分野で一人ひとりの力が発揮できるように感謝と励ましを忘れず、生きがいや喜びとなるよう支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者一人ひとりの希望により散歩、買い物、近くの展望台やフラワーガーデンの見学等対応している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	併設事業所(同一建物内)の利用者が無断外出することがあり、施錠することが多いが、鍵を掛けることの弊害も充分理解されている。実際には声掛け、見守りにより職員が即対応しており弊害はない。また1Fロビーへのエレベーター使用、ベランダや外庭へは自由に出入り出来ることより閉塞感はない。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年1回、消防署立会いの防災訓練を実施し、内部の避難訓練は毎月実施している。災害時対応マニュアルも完備しており、職員は避難経路や対応について把握している。	○	夜間を想定した訓練が未実施につき、緊急招集訓練も合わせ検討中である。実施については運営推進会議での議題でもあることより自治会、民生委員の協力を頂く予定である。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分摂取量は個人記録により管理している。献立は給食会議において検討、旬の食材や利用者の希望も配慮するが、栄養バランス、カロリーなどは法人の管理栄養士の助言をえている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	広く、ゆったりとした食堂・居間には明るい日差しが差し込み、緑いっぱいの景色が目の前に広がり季節を体で感じることができる。水槽や趣味の作品を展示し、古いミシンを置くなど、生活感や季節感を演出している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や生活用品を持ち込み、思い出の写真を掲示するなど、利用前の環境を出来るだけ変えることなく、利用者が安心してゆったりとした時を過ごせるように配慮している。		